

下関市立学校適正規模・適正配置基本計画策定に伴う地元説明会

1. 場 所：菊川ふれあい会館

2. 日 時：令和 7 年 7 月 29 日 19：00～20：00

3. 参加人数：13 名（教育委員会を除く）

4. 主な質疑

■参加者

小中一貫校の説明を再度お願いしたい。

あと、適正規模で教育が行われることはすごく理解できるが、令和 12 年檜崎小学校と岡枝小学校が統合した統合校 1 1 1 名が、その時点で適正なのか。適正である説明を再度お願いしたい。

小中一貫校になる学校と、小学校だけ統合する学校、どういう違いがあるのかも説明してほしい。

□教育委員会

小中一貫教育については、現在でも小中連携の一環として行っている。適正規模・適正配置基本計画の中で、学校の位置付けとして、小中一貫教育校ということで規模的なメリットを出していこうという考え方。

資料の 3 番、適正規模・適正配置の手法と対象で、①が学校統合、②が小中一貫教育校ということにしている。教育委員会としては、まず適正規模を確保するために、学校と学校、小学校と小学校を統合することを原則的に考えている。ただそれだけでは適正規模が確保できないケースや、中学校も適正規模には至っていないケース、中学校の校区内に中学校 1 校小学校 1 校になるケース。それと、周辺もさらに統合できる学校があるかというとなかなか難しいということで、その場合には小中一貫教育校という形で、規模的なメリットで小規模の課題を少しでも解消したい。まずは学校統合により適正規模化を図る。それでも適正規模に十分でないというところに関しては、この 2 番目の小中一貫教育校というのを手法として取り入れている。

両校統合後の 111 名ということについて、表の下の方に学級数と書いているが、こちらが 1 学年に 1 クラスずつの編制になっている。適正規模・適正配置計画の適正規模の考え方は、小学校中学校とも、適正規模の範囲は 12 学級か

ら 24 学級という学級数を適正と考えて、12 学級より少ない学校については、検討対象校としている。今回、統廃合の組合せのパターンを示しているのは、資料の左下のところにやや大きめで書いているが、優先対象校の考え方を、小学校も中学校も 5 学級以下の学校について、優先的に適正な規模化を図るべきという考えで優先対象と考えている。小学校でいうと、5 学級以下は 1 学年に 1 学級編制できない、いわゆる複式学級がある学校になっている。中学校に関してはクラス替えができない学年があるというところで、検討対象校の中でも 5 学級以下の学校については優先的に取り組んでいくという基準を設けた。

両校の統合後の人数が 111 名で、各学年 1 学級ずつになっている。これからいくと適正規模には満たしていないが、優先的に取り組むべき優先対象を 5 学級以下としているので優先対象校ではない。さらに 5 年後、令和 12 年に小規模化が進んでいった場合には該当する可能性はあるが、今回の計画は 5 年間、ここでは優先対象にはならない。

■参加者

1 つは、この基本計画が第 4 期だから、1 期から 3 期が終わったということだが、これは内容がどういうものだったのか。

榎崎小学校と岡枝小学校の統合の話は、教育委員会の決定事項ではないが、こういう方向性という話が 4、5 年前から出ていた。早く統合した方がよいという話は町民からも出ていたが、一時話がなくなって今回こういうこと。この話はなくなったのではないかと思っていた。適正適正と言っても、少子化でよほどのことがない限り増えることはない。人口が減ってきている状況の中で、この流れは止められない。早くこういうことが、教育を司る立場の人が、地域住民に具体的に話をしながら、こういう形がいいんだということを啓発して、流れを早めないといけない。遅いと思う。統合するのは大賛成。これが決定するスケジュール、これをまずクリアしないといけない。榎崎と岡枝が統合するスケジュールを教えてください。

□教育委員会

まず基本計画の経緯から説明する。本市の適正規模・適正配置基本計画の取組については、平成 21 年度から取り組んでおり、このときに第 1 期計画を策定した。これは 6 年間。その後、2 期計画 3 期計画は 5 年計画で、昨年度 3 期計画が終わったところ。第 1 期計画については、統合パターンを小中合わせて 14 パターン示した。2 期計画については 12 パターンを示した。1 期計画と 2 期計画においては、菊川中学校区については統合のパターンを示していない。こちらの校区で初めて統合のパターンを示したのが、第 3 期計画の令和 2 年度。こ

のときに、榑崎小学校と岡枝小学校を統合して、学校位置については岡枝小学校というパターンを提案をした。今回の第4期計画も同じパターンで示している。市内の学校について同じ基準で優先対象校を考えている。第2期計画までは、菊川中学校区は入っていなかったので推奨していなかった。少子化が進んでいった第3期から榑崎小が優先対象校になった。

過去から説明をしているが、やはり小規模になっても学校を残して欲しいという意見が多い。今の意見は、どちらかというとき稀な賛成意見。他地域においてもそういう状況で、そこを納得していただくように意見交換を繰り返していたが、なかなか簡単にはできないので、スピード感を持つというのは課題。教育委員会も、保護者、地域のニーズを理解するのは非常に難しかったというのが経緯。納得していただくように、啓発するスピード感を持つということについてはありがたい意見。

2点目のスケジュールに関して、3期計画までで統合に至った学校はいくつもある。それぞれについて、計画期間中にすべて果たしたわけではなく、計画期間が終わっても実現していないので4期計画まできている。いずれの統合についても、地元の合意が確認できなければ実施には向かっていない。保護者、地域との話し合いの中で、統合について確認できたら、統合に向けて準備をする形をとっている。今も考え方は変わっていない。スケジュール的なところでいうと、そういった意見交換、協議を重ねた結果、統合に向かうとなった場合に、いつ統合するのかを決めるが、過去の事例でいうと統合に向けては準備が必要となる。学校位置は決まっているが学校の名前をどうするか、校章をどうするか、校歌をどうするか、制服や指定用品などをどうするか、通学の対策についてどうするか、というところを1つ1つ確認をして課題を解消していく作業がある。それには最低でも、過去の事例で言うとき2年はかかる。協議を経てプラス2年という形で、協議もすぐに終わるということにはならないので、それからいくと3年以上かかるのが実態。

■参加者

今、地元協議の了解があつてということだったが、今日集まっているのは20人いるかどうか。今日の会議自体を自治会回覧で回したと思う。対象校の地域の人が、どれだけ回覧を見たのか。回覧という手法は間違っているのではないと思う。特に、統合されて学校がなくなることの危機感、回覧で対応すれば済むというものではない。各戸に1枚あればじっくりゆっくり見られる。回覧は次に回さないといけな。特に榑崎はすぐ隣が家というわけではなく、ちょっと離れているから、遅くなつてはいけなからすぐ回す人も多い。地元協議の了解を得るというのは、もっと違う形の周知方法にしていきたい。

□教育委員会

周知に関しては、やってもやりきれないところがあると思っている。教育委員会としては、統合パターンの特に関係のある地域に関しては、自治会の回覧を回した。それから、各学校を通じて、説明会があるというのは、きらめきネットのメールで保護者にも伝えている。今日 20 名いない参加ということで、指摘の部分は十分ではなかったかもしれない。

ただ地元の意見に関しては、計画は基本計画なので、基本計画として策定させていただいた後、まずはその学校を通じて保護者と意見交換をする。そういう手順を踏む。それから地域の自治会に話をしている。こういう手順になる。地域に話をするのに、保護者はどういう意見なんだという声をよくいただくので、まずは保護者、PTA と話をさせていただきたい。そういう形で進めて、地域と議論を進めていって、地域で統合した方がよいという結論になったら、PTA と自治会と学校運営協議会、それぞれの代表者の連名で、いつ頃の統合を目指すということに同意するというような書面をいただくことで、次のステップに進むようにしている。そういう手順で行っているので、今日の説明会の参加が十分でなかったかもしれないが、この先地域で話をさせていただく機会を作るので、そこでぜひ意見を踏まえて協議をさせていただきたい。

■参加者

適正化の実施は、保護者や学校運営協議会で協議を行って今日の説明かなと思っていたが、そうではないという理解でよいか。

□教育委員会

基本計画の案を策定する前段としては、検討委員会という外部の自治会代表者、PTA の代表者等、全市内の代表者で組織する検討委員会に諮って答申をいただいて案を作った。具体的な話については、策定後に、それぞれの地域の関係者、保護者、PTA、自治会等に個別に具体的な話をする。まずは市全体の適正規模・適正配置について案を示したというのが今回である。

■参加者

一応、骨子案があるので、とりあえず説明会をやって、これから具体的に展開するということだが、この中の計画期間 7 年度から 11 年度 5 年間ある。この位置付けは、この 5 年間の間にとりあえず決めるというか、それともやってしまうということか。

□教育委員会

計画期間が7年度から11年度までの5年間ということで、教育委員会としてはこの期間に統合を目指したい。目指すべきということで取組をする。計画を策定したら、各地域で個別に話し合いの形になる。

この5年間で統合と思っているが、決まってから統合するまでに最低2年の時間を要するので、この5年間の間に統合校が開校することが叶うかという、実際には叶ってこなかったのが3期計画まで。統合することになった学校もあるが、できなかった学校もある。そのまま同じ統合パターンを次期計画で示したこともあるし、更に小規模化が進んで違うパターンで示したものもある。そういった形で、5年間の間に統合は全部果たせるかということそうではないが、それを目指して取り組んでいく。

■参加者

今回9回目、あと1回あって終わり。今までやって、やはり人数は少ないのか。また、出席者は統合は嫌だと言っているのか。どのような感じなのか。差支えない範囲で教えてほしい。雰囲気を知りたい。

□教育委員会

地域によっては大きい会場がないので、公民館を使って説明会をするところもある。今まで9回実施した中で、30名前後が多かった。各会場での意見については、地域で話の内容が全然違っていったという実感はある。

学校がなくなることには賛成できないが、ぜひ話し合いを進めていきたいというような話で進んだところもあるし、小規模校の何がいけないんだというところの議論に終始する地域もあった。統合のパターンによっては、学校の位置について納得がいかないという地域もあった。地域によってやはり様々だったと思う。そして学校がなくなるという地域にとって大きな話なので、それに関しては受け入れがたいという声が多い。教育委員会もそれを承知で話をしている。大体そのような感じ。

■参加者

地域への説明をしなくてはいけないのは当然。子供たちの教育にとって小規模化や複式学級がよいのかどうか分からないが、教育施策を決めて実行に移すという行政についていろんな意見がある。学校がなくなるのはいやだ、小規模がなぜいけないのか。自分は小規模はいいと思わないが、どうしようもない現実が進んでいる状況。

だから5年間計画期間があっても、それから2年かかるというのは、それは

ということか。行政という言葉で、遂行する、執行する、結果を出すということは、そういうふうな説明責任を果たして、本当に地域の人を納得させる。少し時間がかかるかもしれないが、2年もかかる3年もかかるというのはおかしい。やはり、早急に進める。強い危機感を持っているのでお願いしたい。市長がこのようにしたいと思ったら、そういうことを理解させながら、反対意見は当然あると思うが、そのようにしないといけないのではないか。それでないと前に進まない。

□教育委員会

行政に対する叱咤激励ということで受け止めたい。

教育委員会も進めるという意思のもとに取り組んでいる。ただ住民との合意形成は行政としては非常に大事なものと受け止めているのも事実。

実際学校がなくなるということに関しては、条例を改正する必要がある、市議会に諮らないといけない。学校は住民にとって非常に大事な施設である。その大事な施設がなくなるという条例改正には、通常2分の1の議会の賛成だったら改正されるが、学校の廃止に関しては3分の2の賛成がないと改正できない、非常に重たい判断になる。そのため住民との合意形成は大事だと考えている。スピード感を期待されるところができないかもしれないが、着実に次に進めている。そういった重大な判断をするという意味で、住民の意見は大事だということで取り組んでいる。

■参加者

統廃合の委員として携わったこともある。以前から話は聞いているが、菊川町としての良さを残すとしたら1つだと思う。豊東を含めて一緒にする。なくなるという言葉を使っているが、少子化でなくなって少なくなるのは仕方ない。でも、みんなで1つになるよという考え方なら、地域はもっと賛成してくれると思う。5年間で準備を進めるうちに、豊東も少なくなってくるので、檜崎、岡枝、豊東で1つという考え方をもってもらえないだろうか。母校の檜崎小学校がなくなって岡枝に行くとなると地域も寂しい。なくなるから1つというのではなく、みんな一緒になるんだという地域も納得すると思う。そういう方向性も考えてほしい。

□教育委員会

なくなるという言葉を使い、ネガティブな説明をしたことを、意見いただいて反省している。今のご意見の見方があるということ、改めて感じている。これから地域で説明をする際は、そういった視点を持って臨みたい。

菊川の地域で小学校 1 校、中学校 1 校ということで、そういった見方は、長期を見据えれば十分あり得ると思う。

今回、檜崎小の小規模化を早く対応すべきということで、これは市内全地域で、小規模校の規模の確保を急ぐべきという考えのもと、現実的な統合のパターンを示したが、長期的な見方をすれば、大きなエリアに小学校と中学校ということは考えられる。そういったところも見据えて考えたいと思う。

■参加者

前の人と同じ意見。

もう 1 点、PTA で、令和 2 年度の説明会も参加した。保護者の反対はなかった。なぜこの 5 年間進まなかったのかというのが保護者の意見。コロナがあってやむを得なかったのかなと。規模は適正規模が教育にとって良いのであれば、もっと熱量を持って進めていただきたかった。それと、岡枝小学校は土砂災害警戒区域。そこに檜崎小学校が行って、ポジティブな統合になるのかなと思う。それであれば、菊川中学校の敷地内の安全なところに小学校を設けて、小中一貫校を作っていただきたいと思う。菊川地域はそう願っているのではと雰囲気を感じている。2 校が統合されて 1 校になるより、3 校が新しい 1 校をつくるのではイメージが違う。子供たちのために、ぜひいい学校を、ポジティブな学校を作っていただけるような案を作成して実行していただきたい。

□教育委員会

2 校を 1 つよりも 3 校を 1 つという話をいただいた。説明会をしていると、ポジティブな意見がなかなか出てこないことが多くある中で、ポジティブな意見をいただきありがたい。長期を見通しての検討は引き続き考えていきたい。

令和 2 年の説明会のあと、意見交換会を学校で行って、檜崎小に関してはその時アンケートを取っている。そのアンケートの中で言うと、単純に賛成か反対かという部分に関しては、反対も十分いたというのがわかったところで、それについては慎重になったというのがこの 5 年間であり、進められなかった。

■参加者

保護者の方がたくさんいる中での活発な意見交換、子供たちにとってよりよいものを話し合えるかと思っていた。ぜひ活発な意見をやりとりする場が欲しい。

□教育委員会

今回は計画期間5年の計画、前計画を終えた後の次の計画の考えを示す説明会ということで実施した。説明会の対象としては、保護者、地域の皆さんで同じ案内ということで行っている。これから先、計画を策定したら、まずは保護者向けに意見交換と思っている。学校とPTA会長と相談をさせていただき、どういった形であるかということも含めて話しをさせていただく。PTAの保護者のみの意見交換を、各地域ですっとやってきたが、その中ではこういった説明会では出ない細かい話も出てきた。ぜひそういった機会をもって議論を深めていきたいと思っている。またその時期が来たら、各地域に教育委員会が行くので、参加していろんな意見をいただきたい。